

1 題材名 曲想の移り変わりを味わって聴こう

2 題材の目標

旋律、音色、音の重なりと、音楽の仕組みのかかわり合いによる曲想とその変化を感じ取って聴く活動を通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

高学年の児童は、旋律、楽器の音色、音の重なりとともに、反復及びその変化など様々な音楽の特徴を捉えていく活動を楽しむ傾向がみられる。これまでの学習を基にして、曲想とその変化などの特徴を感じ取って想像豊かに聴いたり、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴いたりして、聴く喜びを深めることが重要なこととなる。

教材として扱う「木星」は、ホルストが作曲した管弦楽組曲「惑星」の中の一曲である。軽快な速度で旋律や音色が次々と変化していく前半部分A(主題①②③)と、伸びやかで堂々とした旋律がゆったりと演奏される中間部分B(主題④)、4つの主題が演奏され力強く終わりに向かう後半A'コーダで構成される。

中間部分Bに現れる主題④は、単独でも様々なジャンルに編曲され、世界中で親しまれている大変有名な旋律であり、児童も生活の中で耳にした経験があると考えられる。この雄大な旋律は繰り返されるごとに、楽器が重なり、響きが豊かになっている様子を味わうことができる。また、楽器の音色が重なっていくことで生まれる曲想の変化を感じ取って聴くことができる。

前半部分Aでは、初めに弦楽器の小刻みな動きとホルンによる勇ましい旋律が重なり合い、広がりを感じさせる主題①が現れる。続いてリズムカルな主題②、3拍子で民族舞曲のような主題③が順番に現れる。それぞれ個性のある3つの旋律が、音色を変え、反復や変化などの音楽の仕組みとのかかわり合い、次々に現れる様子を楽しみながら聴くことができる。この前半部分の3つの主題は、楽曲の後半にも転調を伴いつつ繰り返される。また、力強いコーダの前には、主題④が想いを残すように現れる。

この曲の鑑賞を通して、楽曲の構造を理解し、音楽を全体にわたって味わって聴くことができると考え、本題材を設定した。

(2) 児童について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導にあたって

本題材では、音楽から聴き取ったことを共有したり、感じ取ったことを互いに表出し共感したりする活動を通して、楽曲全体を味わって聴くことができるよう学習を進めていきたい。

長い楽曲なので、部分的に取り上げてそのよさや楽曲全体の中での効果をしっかりと感じながら聴いていくが、そのために楽曲の聴きたい部分をすぐに再生できるよう、音源を用意しておく。

また、旋律が繰り返し現れることや音色の変化について、体を動かしながら聴いたり聴き取ったことと感じ取ったことを音直線に表したりすることで、曲想およびその変化と音楽の構造とのかかわりについて、実感を伴って理解できるようにする。

第1時では、中間部分Bを扱う。主題④が3回くり返されるので、くり返すたびに増えていく楽器の音色に気付くことができる。部分的に聴いたり、つなげて聴いたりして音色や音の重なりの変化を聴き取り、響きの豊かさを感じ取ることができるようにする。

第2時では、3つの主題の現れる前半部分Aを鑑賞する。前時と違い、たくさんの旋律があることとおさえ、口ずさんだり体を動かしたりして旋律の現れ方について気付いたことを意見交換する。

その際、主題を捉えることができるように、音楽を聴き一緒に歌ったり、楽譜を見て、音の動きやリズムなども確認したりする。

続いて、3つの主題について、部分的に聴いたりつなげて聴いたりして、Aについて気付いたことや感じたことを話し合う。それぞれの主題の特徴や感じたことをまとめるだけでなく、A全体について気付いたことや感じたことも音直線上にまとめて可視化する。また、発言することが難しい児童がいれば、近くの人と意見交換をし、自分の考えをまとめていけるよう助言する。

授業の最後では、前半部分Aがどのようなつくりになっているか音直線で確認し、音楽を特徴付けている要素と仕組みとのかかわりについておさえ、楽曲の構造への気付きにもつなげていきたい。また、次時にお薦めポイントを書くための材料として、心に残ったことを記録しておく。

第3時では、全曲が[A-B-A'-終わり]になっていることを知り、くり返し出てくる旋律が、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みとのかかわり合いにより変化することを味わいながら全曲を通して鑑賞する。映像で視聴することで、今まで聴き取ったり感じ取ったりしたことを具体的にイメージしたり共有したりしたい。題材の最後には、この曲のお薦めポイントを書き、発表するなどして、自分にとっての楽曲や演奏のよさを伝え合う。

題材を通して児童の実態を考慮し、感じ取ったことの理由を、音楽を形づくっている要素と関連付けて考えたり、聴き取ったことがどのような曲の面白さを生み出しているのか考えたりすることができるような支援を大切にしたい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1)本題材で指導する事項 B鑑賞 ア、イ、ウ

(2)取り扱う主な音楽を形づくっている要素 旋律 音色 音の重なり 反復 変化

5 教材 管弦楽組曲「惑星」より「木星」(ホルスト作曲)

※使用音源：小澤征爾 指揮/ボストン交響楽団

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の 創意工夫	ウ) 音楽表現の 技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽				
A・音楽づくり				
B・鑑賞	○			○

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	エ) 鑑賞の能力
①旋律や音色、音の重なりに関心をもち、曲想とその変化の特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律の反復や変化が生み出す面白さを感じ取って聴いている。 ②曲想とその変化の特徴や音楽を形づくっている要素のかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

7 指導と評価の計画(全3時間)

時	主な学習活動(○ねらい・学習活動)	教材	評価規準と評価の方法
1	○旋律や音色、音の重なりによる曲想を感じ取って聴くことができるようにする。 ・中間部分Bを聴き、主題④が現れたら手を挙げるなどし、3回現れることを確認する。 ・主題④の1回目から3回目をそれぞれ聴き、音楽を形づくっている要素の変化について気付いたことや感じたことを話し合う。 ・音色や音の重なりの変化が生み出す曲想について話し合う。 ・楽曲全体を鑑賞し、曲全体のつくりが[A-B-A'-終わり]になっていることを知る。また、中間部を含め、感じたことを話し合う。	木星	ア① ・行動観察 ・発言内容
2 (本時)	○旋律の反復や変化が生み出す面白さを感じ取って聴くことができるようにする。 ・旋律に注目し、口ずさんだり体を動かしたりして旋律の現れ方について気付いたことを意見交換する。 ・3つの主題について、部分的に聴いたり、つなげて聴いたりして、Aについて気付いたことや感じたことを話し合う。 ・前半部分Aがどのようなつくりになっているか音直線で確認する。 ・前半部分Aを味わって聴き、「心に残ったこと」をワークシートに書く。		エ① ・行動観察 ・発言内容
3	○想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、曲想の移り変わりを味わいながら聴くことができるようにする。 ・前半のAと後半のAについて、どのように違うのかを話し合う。 ・くり返し出てくる旋律の音色や音の重なりによる曲想について話し合う。 ・全曲が[A-B-A'-終わり]になっていることを確認する。 ・DVDを視聴し、気付いたことや感じたことを話し合う。 ・この曲のお薦めポイントを書き、発表するなどして楽曲の特徴や演奏のよさを伝え合う。		エ② ・発言内容 ・行動観察 ・ワークシート

8 本時の学習（本時 2 / 3）

（1）ねらい

旋律の反復や変化が生み出す面白さを感じ取って聴くことができるようにする。

（2）展開

○学習活動（・予想される児童の反応）	教師の支援	評価規準と評価の方法
<p>○前時の学習のふり返りをする。 ・主題④を歌ったり聴いたりする。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>・前時に板書したことを模造紙にまとめておき、掲示する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">せんりつの移り変わりを味わってきこう</div>		
<p>○Aに3つの主題があることを知り、ロズさんだり体を動かしたりして旋律の現れ方について気付いたことを意見交換する。 ・主題①②③をそれぞれ聴き、ロズさんだり楽譜を見たりして確認する。 ・グループ内で、それぞれが自分の担当の旋律を決め、Aを聴いて、自分が担当した旋律が聴こえたら立つなどして、Aのつくりを確認する。</p> <p>○3つの主題について、部分的に聴いたり、つなげて聴いたりして、Aについて気付いたことや感じたことを話し合う。（★）（♥） ・全体的にキラキラした感じがする。 ・最初のキラキラが、主題①の後ろでも聴こえた。 ・最初が映画の始まりの音楽のようだ。 ・同じ旋律が何度も出てくるけど、演奏している楽器が違うから、雰囲気違って聴こえる。 ・3つの旋律が、①②①③と出てくる。 ・旋律が変わる前につなぎのようなものがある。 ・いろんな旋律が、次々と音色を変えて出てくる楽しい部分だ。 ・タ タ タンのリズムがたくさん聴こえてきて、②とってしまう。 ・③が何回も繰り返されるけど、その度に違う楽器が加わって、だんだん盛り上がっていく。 ・③が急に3拍子になって、感じが変わって面白い。 ・Bに入る前に静かになる(音が止まる)。 ・ごちゃごちゃしていたAも、旋律を追って聴いていくと整理できてよかった。</p> <p>○前半部分Aがどのようなつくりになっているか音直線で確認する。</p> <p>○前半部分Aを味わって聴き、「心に残ったこと」をワークシートに書く。（ふりかえり） ・たくさんの旋律が出てきて面白い。 ・別の曲がつながっているようで面白い。 ・軽くてかわいい感じがした。 ・速くていろいろな旋律が出る楽しいAがあるから雄大なBの部分が引き立つと思った。 ・後半は、どうなっているのか確かめたい。</p>	<p>・主題を捉えることができるように、音楽を聴き一緒に歌って確認する。 ・楽譜を見て、音の動きなども確認する。</p> <p>・だれが何番の旋律を担当しているか互いにわかるように色分けをする。</p> <p>・児童の気付きを全体で共有するために、必要に応じて音楽を聴いて確かめる。 ・それぞれの主題の特徴や感じたことをまとめるだけでなく、A全体について気付いたことや感じたことも音直線上にまとめて可視化する。 ・音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さを関わらせて考えられるようにするため、聴き取ったことと感じ取ったことを整理して板書するようにする。 ・発言することが難しければ、近くの人と意見交換をし、自分の考えをまとめていけるよう助言する。</p> <p>・児童の発言の中から、音楽を特徴付けている要素と仕組みとのかかわりについておさえ、楽曲の構造への気付きにもつなげる。</p> <p>・曲想とその変化をふり返りながら聴くことができるように助言をする。 ・ふりかえりの言葉から、次の時間のめあてを設定できるようにする。</p>	<p>エ① 行動観察 発言内容</p>

(3) 予想される児童の具体的な姿

【鑑賞の能力】エ①

旋律の反復や変化が生み出す面白さを感じ取って聴いている。

<p>「十分満足できる」と判断される児童の姿の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・③が急に3拍子になって、軽やかな感じがする。 ・③が何回も繰り返されるけど、その度に違う楽器が加わって、だんだん盛り上がっていく。 ・同じ旋律が何度も出てくるけど、演奏している楽器が違うから、雰囲気は違っていていると思った。 ・旋律が変わる前につなぎのようなものがある。 ・いろんな旋律が、次々と音色を変えて出てくる面白い部分だ。
<p>「おおむね満足できる」と判断される児童の姿の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの旋律が①②①③と出てくる楽しい部分。 ・出だしがキラキラとした感じがする。その動きが、①の後ろでもずっとあった。 ・③の旋律が何回も出てきて、どんどん盛り上がる。 ・Bに入る前に静かになる(音が止まる)。
<p>「支援を必要とする」と判断される児童の姿の具体例と指導の手立て</p>	<p>Aのそれぞれの旋律をとらえにくい。 ⇒3つの主題を一緒に歌うなどして確認する。 ⇒どの旋律が聴き取りやすかったか、どう感じたかを尋ねる。</p>

9 授業研究の視点

本校研究仮説1：主体的に聴くこと

体を動かしたり、旋律を口ずさんだり、楽譜を見たりして旋律の反復や変化を聴いたことは、楽曲の構造を主体的にとらえるために有効であったか。

本校研究仮説2：学び合い

ペアなどを使って旋律の反復や変化の聴き取りを行い、気付いたことや感じ取ったことを話し合ったことは、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取るために有効であったか。

本校研究仮説3：[共通事項]

旋律を手がかりとし、反復や変化のかかわり合いから旋律の現れる順番を確認し、それに付随して聴き取れたことを整理していったことは、楽曲の構造について理解するために有効であったか。